



「進んで学ぶ子ども」「思いやりのある子ども」「がんばる子ども」の育成

～あいさつをしよう・やくそくをまもろう・おもいやりをもとう～

泉佐野市立第三小学校

### 南海トラフ巨大地震に備える

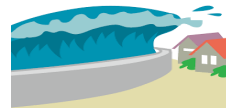


2月、如月(きさらぎ)《衣更着(きさらぎ)》を迎え、ますます寒さが厳しくなっていく時期です。

全国的にインフルエンザが猛威を振るっていますが、本校では流行とまでには至っていない現状です。しかし、油断をせず、教室に加湿器を設置したり、手洗い・うがいを励行したりし、予防につとめているところです。

さて、1月17日(金)には現地の様子を中心に、阪神・淡路大震災発生から30年目をむかえての報道がされていました。あらためまして、お亡くなりになられた6,434名の皆さまに哀悼の意を表するとともに、被災されたすべての方々に対しまして、お悔やみ申し上げます。

生かされた私たちは、東日本大震災(2011年)、能登半島地震(2024年)で被災された方々のこともいつまでも胸に抱き、甚大な被害をもたらすことが予想されている、南海トラフ巨大地震の発生に備えなければなりません。



学校では、泉佐野市で「震度5弱以上の地震」が発生した場合の「非常変災時対応マニュアル」をもとに、子どもたちの在校中を想定した避難訓練や対応組織を組んでいます。

また、地域の防災会会長さんも、学校の運動場に備えつけの防災倉庫の備蓄品の点検や、補充をきめ細かく行ったださっています。

しかし、実際に巨大地震が発生した場合、災害を最小限に抑えるには、何をおいても各ご家庭での日頃からの備えがとても大切です。

1月17日(金)付の毎日新聞朝刊の記事には、『政府の地震調査委員会は15日、マグニチュード(M)8~9程度を想定する南海トラフ巨大地震の30年以内の発生確率を「80%程度」(75%~82%)に引き上げた。』と掲載されていました。

学校・家庭・地域が「いつ起きてもおかしくない。」という意識を高く持ち、『すべての人のかけがえのない命』を守っていききたいと強く思います。

校長 泉谷 一